

柱状図(128.00m~139.00m)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm)	記事
	130			花崗斑岩	褐灰	CM'	100	8	0		128.08~128.64m: CM 各割れ目面は薄く淡褐色化し直上よりも風化するが、砂や粘土など挟在物は認められない。
						CL					128.64~128.88m: CL φ10mm前後に細かく砕けた角礫状コアで、各割れ目面には砂が付着することがある。割れ目ぞいに風化が進行していると推定される。
						CM'	100	11	11		128.88~129.91m: CM 60~70°の高角度と30~40°の低角度割れ目の交差部ではφ10mm前後に片状~角礫状化するが、砂状部や粘土化部ははさまない。
						CH'	100	16	26		129.91~131.93m: CH 一部のコアにはゆ着割れ目や密着割れ目を含み、ハンマーの強打でも密着し、分離・細片化しないものが多い。
						CM'	100	28	53		130.00~140.00m: ゆ着割れ目が約10mm間隔で分布。
						CM'	100	11	11		131.40~131.52m: φ20~30mmに角礫状化しているが、これはロッド引上時に生じた人為的な現象と推定される。
						CM'	100	7	0		131.93~138.07m: CM ゆ着割れ目や密着度の低い割れ目を多く含んでいる。既に開口化しているものも多い。
						CM'	100	9	0		割れ目の一部は風化で薄く砂状部をはさむことがあるが、挟在物がない(b)割れ目が主体。
						CM'	100	6	0		132.07~132.24m: φ10~20mmに角礫状化する。割れ目面に砂が付着するものが多い。微細な黄鉄鉱も伴う。
						CM'	100	11	11		同区間は珪質である。
						CM'	100	6	0		133.40~134.00m: ゆ着した密着割れ目ぞいに開口化し、φ10mm前後に細かく砕けている。
						CH'	100	12	23		133.82m: 60°割れ目ぞい幅20mmがφ3~5mmの細片状化しているが、風化に起因する砂や粘土ははさんでいない。
						CL					135.80~136.00m: ゆ着割れ目ぞいに開口し、長さ10~30mm程度に細片化している。
						CM'	100	6	0		137.00~138.07m: ゆ着割れ目が多いが密着度は高く、ハンマーの強打でも分離しない。すでに開口割れ目化しているものも多い。
						CM'	100	6	0		φ2~3mm暗緑灰色の緑泥石が斑点状に点在する。
						CM'	100	6	0		138.07~138.44m: CM 密着度の低いゆ着割れ目を多く含み、全体として硬さ「C」である。
						CM'	100	6	0		長石の白濁化や割れ目挟在物は殆んど認められない。
						CM'	100	6	0		φ2~3mm暗緑灰色の緑泥石斑点が多い。
						CH'	100	6	0		138.44~138.80m: CH 堅硬、塊状、ゆ着割れ目が多いが密着度高くハンマー強打でも分離しない。
						CL	100	6	0		138.80~139.82m: CL 139.18m以浅は硬さ「C」、以深は軟化が進み「D」である。
						CL	100	6	0		全体に割れ目挟在物は殆んど含まない。
						CL	100	6	0		138.93m: 60~70°厚さ5~10mmで湾曲しながら石英脈が密着~一部割れ目化して連続。
						CL	100	6	0		138.95~139.08m: 30~40°と70°割れ目が交差し岩片状を呈する。劣化は伴わない。
						CL	100	6	0		139.18m以深は上位より風化と変質が進む。

柱状図(139.00m~140.00m)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア 採取率 (%)	最大 コア長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D 0 20 40 60 80 100	記 事
	-78.77	140.00	+	+	+	+					<p>139.31m: 72° 割れ目ぞい厚さ2~5mmマンガン鉱染受ける。</p> <p>●139.82~139.88m: 破砕部(主せん断面139.82m)</p> <p>139.82m: Hc-1 52° で直線的に連続。肉眼的には石英粒、岩片を含まない軟弱粘土(カウジ)。色調は暗緑灰(5G3/1)~灰褐色(7.5YR4/1)。厚さ0.5~1mm。</p> <p>139.82~139.88m: Hj 52° で上下端とも直線的に連続。φ3~5mmに細かく岩片化。岩片間は砂状化(粗粒砂主体)。岩片の多くは主せん断面方向に配列している。全体に「砂混じり岩片状」を呈する。色調は暗緑灰色(10G3/1)。厚さ40mm。</p> <p>139.88~139.95m: D 主せん断面と平行に近い割れ目が多い。岩組織は残留する。</p> <p>139.95~140.00m: CL 硬さ「C」岩片主体。</p>

H27-B-1

コア写真(0.00m~18.00m)



H27-B-1

コア写真(18.00m~36.00m)



コア写真(36.00m～54.00m)



コア写真(54.00m~72.00m)



H27-B-1

コア写真(72.00m~90.00m)



コア写真(90.00m~108.00m)



コア写真(108.00m~126.00m)



H27-B-1

コア写真(126.00m~140.00m)



H27-B-2

余白

柱状図(0.00m~17.00m)

H27-B-2

孔口標高	T.P. 20.11m	掘削長	160.00m
------	-------------	-----	---------

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色 調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D %	記 事
	19.62	0.70		ノンコア			30				0.00~0.70m: ノンコア(この区間はコンクリートからなり、コア採取はしていない)
					灰黄褐		100				1.00~2.00m: 径0.05~2.0mmの中粒砂~極粗粒砂主体の盛土。 淘汰は良い。
					にぶい黄橙		100				2.00~3.40m: 径0.05~2.0mmの中粒砂~極粗粒砂主体の盛土。 淘汰は普通。 径10~50mmの礫を複数含む。
					にぶい褐		100				3.40~4.00m: 径0.05~2.0mmの中粒砂~極粗粒砂主体の盛土。 淘汰は良い。
					灰褐		100				
					褐灰		100				
					明黄褐		100				
					黄褐		100				
	11.39	12.33		砂礫	褐		100				12.33~12.75m: 礫率70~80%でクサリ礫を多く含む。 礫種は花崗斑岩と一部アブライトで、礫径は2~100mmで、一部最大径200mmの礫が認められる。 亜角礫が主体。
	11.09	12.75		砂礫	にぶい橙		100	3	0		12.68~12.80m付近にマンガン濃集部が認められる。
	10.54	13.50		砂礫	にぶい黄橙		100	3	0		12.75~13.00m: 礫率5~10%でクサリ礫を含む。 礫種は花崗斑岩で礫径は2~10mm。 亜角礫が主体。
				花崗斑岩	明褐灰	CL	100	3	0		13.53~29.88m: CL 硬さ「D」主体で、0~30°割れ目が多い。全体に風化し、一部の割れ目ぞいには砂状化が進む。
							100	4	0		13.91m: 幅4mmで傾斜15°の石英脈が認められる。 14.55~14.68m: 割れ目沿いにマンガン濃集部が認められる。一部(14.55~14.63m)で土砂化が生じている。 14.89~15.00m: スライムのため判別不可。 15.00~15.09m: スライムのため判別不可。 15.62~15.66m: 割れ目に沿ったマンガン濃集部あり。 15.80~16.00m: 割れ目に沿ったマンガン濃集部あり。 16.50~16.51m: 割れ目に沿って緑泥石が発達。 16.76~16.86m: マンガン濃集部が密集している。 16.92~16.93m: 割れ目に沿ったマンガン濃集部あり。

柱状図(17.00m~33.00m)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色 調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 最大コア長 R Q D (%)	記事	
20			+	花崗斑岩	明褐灰	CL'	100	4	0			17.10m: 割れ目に沿ったマンガン濃集部あり
							100	10	10			17.16m: 以深は上位に比べ割れ目がやや少なくなる
							100	6	0			17.57~17.64m: 割れ目に沿って緑泥石が発達
							100	12	12			17.70~17.80m: 割れ目に沿ったマンガン濃集部あり
							100	8	0			17.90~17.94m: 割れ目に沿ったマンガン濃集部あり
							100	23	23			19.59~19.80m: 1cm程度間隔で割れ目あり
							100	15	27			マンガンと石英を伴う
							100	7	0			19.70m: 浅は風化が進み軟質化する
							100	11	11			20.90m: 0° 割れ目ぞい約1cm砂状化
							100	7	0			21.90m: φ1mm石英が80° 割れ目(sj)で切られる(右ズレ1mm)
							100	9	0			21.79~26.82m: 硬さ「C」が主体であるが、硬さ「D」も含み両者が交互に出現する
							100	3	0			割れ目ぞいに風化で砂状化する部分が多い
							100	4	0			22.18~22.49mは硬さ「B」で硬質
							100	1	0			23.52m: 30° と23.82m: 20° の各割れ目に厚さ1mm半固結状の灰褐色粘土脈はさむ
							30			+	花崗斑岩	明褐灰
100	7	0			25.84m: 74° の割れ目(sj)は交差する5~10° 割れ目を切っている(右ズレ、変位量1~3mm)							
100	9	0			26.82m以深は硬さ「D」が主体となる							
100	3	0			27.15m: 65° 割れ目に幅2~3mm軟質淡黄~灰白色粘土脈はさむ							
100	4	0			27.91m: 20° 幅1mm石英脈が交差する85° せん断割れ目(sj)で右ズレ1mmで引きづられるように変形している(切られてはいない)							
100	2	0			28.02m: 以深、1cm間隔の風化割れ目が発達し、片状~礫状化している							
100	3	0			割れ目ぞいに風化砂状化することが多い							
100	3	0			29.88~30.82m: D 概ねφ1cm以下に砕けている							
100	2	0			風化で割れ目ぞいに砂状化が拡大している							
100	1	0			φ5~3mmの硬さ「D」「C」岩片が多く残留し、締った「砂礫状」を呈する							
			+	花崗斑岩	明褐灰	D'	100	3	0			基質は砂状部が主体であるが、灰白色粘土化部も散在している
							100	2	0			岩組織や上部の割れ目は残留している
							100	1	0			30.82~31.15m: CL 割れ目ぞいに砂状化することが多い
							100	1	0			●31.15~31.66m: 破砕部(主せん断面31.29m)
							100	1	0			31.15~31.24m: Hj 上端20° で直線的、下端15~28° で湾曲して連続。一部粘土化したφ5~1mm岩片と岩片間の粘土~幅1~2mm粘土細脈からなり「粘土混じり岩片状」を呈する。色調はにぶい黄橙(10YR7/2)。厚さ80~9cm
							100	1	0			31.24~31.28m: Hb 上端15~28° で湾曲して、下端38° で波打って連続。φ2~3mm石英粒、φ5~1mmの大半が粘土化した岩片計20~30%を含む固結状の「礫質粘土」状を呈する。色調は明赤灰(2.5YR7/2)。厚さ20~3cm
							100	1	0			31.28~31.29m: Hc-2 38° で上端波打って、下端は直線的に連続。φ2~3mm石英粒を10~20%含む軟質粘土(ガウジ)。色調は灰黄褐(10YR4/2)。厚さ5~1cm
							100	1	0			31.29~31.66m: Hj 上端38° で直線的に、下端43° で波打って連続。φ5~2mm硬さ「C」主体(他に粘土化、硬さ「D」「E」含む)と岩片間の粘土からなり「粘土混じり岩片状」を呈する。色調はにぶい橙(7.5YR7/3)。厚さ35cm(コア長)
							100	1	0			31.78~34.37m: D 風化で割れ目ぞいに砂状化が拡大する
							100	1	0			岩組織は残留するが、割れ目は消滅するか、しかかっているものが多い。如々に厚1~3mm白色軟質粘土脈はさむ

柱状図(33.00m~35.00m)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色 調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D	記 事
			+	花崗斑岩	明褐灰	D'	100	2	0		33.00~33.25m: 粘土化進み, 岩組織不明瞭となる。 33.35~33.40m: 硬さ「D」の岩片主体。 33.60m: 5° 幅1mm軟質な赤灰色粘土脈。 33.77m: 7° 幅5~8mmマンガニ鉱染部が脈状に分布。 33.79~33.87m: 硬さ「D」の岩片主体。 33.96m以深は岩組織不明瞭な締った砂状部主体。 割れ目の一部は残留するが, 消滅しているものが多い。 ●34.37~34.48m: 破碎部(主せん断面 34.37m) 34.37m: Hc-1 13°で上端直線的, 下端波打って連続。φ2mm石英粒わずかに(5%以下)含む軟質な粘土(ガウジ)。ガウジは75°のsjと交差し, 2mm右ズレ変位で切られている。マンガニ鉱染伴う。 色調は黒褐色(10YR3/2)。厚さ2~6mm。 34.37~34.48m: Hb 上端13°で波打って, 下端20°で直線的に連続。φ2~3mm石英粒。φ5~10mm粘土化~硬さ「D」岩片を計30%程度含む固結状の「燻質粘土状」呈する。色調は浅黄(5Y7/3)~明赤灰(2.5YR7/1)。厚さ9mm。 34.48~35.13m: CL 34.59m・29°と34.67m・50°は68°幅1mm石英脈を切るせん断割れ目(sj)。
						浅黄にふい	CL'	100	3		

柱状図(35.00m~39.00m)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色 調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D	記事
				花崗斑岩		CL	100	5	0		<p>●35.36~35.46m: 破砕部(主せん断面35.40m)</p> <p>35.36~35.39m: Hj 上端やや不明瞭で47°で波打って、下端47°でやや小さく湾曲するが、これ以外は直線的に連続。φ2~5mm石英粒、φ3~5mm粘土化岩片からなるが、岩片の粘土化進むため構造は不詳。「粘土混じり岩片状」~「粘土質岩片状」呈する。色調は灰黄色(2.5Y7/2)。厚さ25mm。</p> <p>35.39~35.40m: Hc-1 47°で上下端とも波打って連続。上端の一部は不明瞭。φ1~3mm石英粒10%含む軟質粘土(ガウジ)。色調は灰白(1.5YR8/1)~灰褐(7.5YR6/2)で不明瞭な細かい織状模様を呈する。厚さ12~15mm。</p> <p>35.40~35.46m: Hj 上端47°で波打って、下端20~35°で湾曲して連続。φ2~3mm石英粒、φ5mm粘土化岩片からなる。上端側の一部は晶洞中に石英が多く晶出し、マンガン鉱染も伴う。全体に「粘土混りないし粘土質岩片状」呈する。色調は灰黄(2.5Y7/2)~褐灰(10YR4/1)。厚さ40~45mm。</p> <p>35.46~35.68m: D 上下を破砕部に囲まれ粘土化が進んでいる。</p> <p>●35.68~35.73m: 破砕部(主せん断面35.73m)</p> <p>35.68~35.72m: Hj 上端27°の褐色軟質粘土で波打って、下端20°で不明瞭ながら波打って連続。φ3~5mmの粘土化岩片主体で「粘土質岩片状」呈する。色調は明褐灰(7.5YR7/2)。厚さ35~50mm。</p> <p>35.72~35.73m: Hb 上端20°で波打って、下端12°で直線的に連続。φ1~2mm石英粒を20%程度含む半固結状の「礫質粘土状」呈する。色調は淡黄色(2.5Y8/3)。厚さ10mm。</p> <p>35.73m: Hc-1 12°で上下端とも直線的に連続。石英粒、岩片を殆んど含まない(5%以下)軟質粘土(ガウジ)。色調は灰黄褐(10YR6/2)。厚さ1~2mm。</p> <p>35.68~35.92m: D 上下を破砕部に囲まれ、粘土化が進んでいる。</p> <p>●35.92~35.95m: 破砕部(主せん断面35.92m)</p> <p>35.92m: Hc-1 35°で上下端とも小さく波打って膨縮しながら連続。石英粒、岩片は殆んど含まない(5%以下)半固結状の粘土(ガウジ)。色調は灰オリーブ(4.5Y6/2)。厚さ1~5mm。</p> <p>35.92~35.95m: Hb 上端35°、下端45°でいずれも小さく波打って連続。φ1~2mm石英粒、φ2~5mm粘土化岩片を20~30%含む半固結状の「礫質粘土状」呈する。主せん断面と平行方向に幅1mm以下の灰赤色粘土細脈が数条分布。色調は灰白色(2.5Y8/2)。厚さ2mm。</p> <p>35.95~36.76m: D 36.05m以下は粘土化進み岩組織が消滅している。</p> <p>36.05m以下、割れ目、岩組織ともに残留。 36.60~36.70mでは、マンガン鉱染が著しい。</p> <p>36.76~37.12m: CL 割れ目ぞいに砂状化する部分もある。</p> <p>37.12~37.60m: CM 岩片は硬いが(硬さ「B」)、一部の割れ目で幅1~2mmと薄く砂状化する。</p> <p>37.60~38.05m: CL 割れ目ぞいに幅10mm程度と風化が進行している。</p> <p>38.05~38.46m: CM 岩片は硬質で割れ目少なく、割れ目には挟在物は含まない。</p> <p>38.46~39.78m: CL</p>
						CL	100	7	0		
						CL	100	10	10		
						CL	100	8	0		
						CL					
						CL					

柱状図(39.00m~51.00m)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm)	R Q D (%)	記事
40			+	花崗斑岩		明褐灰	CL'	100	8	0		<p>39.60~39.69mは硬さ「D」ないし「E」で、上端側は砂状化している。</p> <p>39.78~40.23m: D</p> <p>岩組織と割れ目は残留。一部で割れ目ぞいに厚さ5~10mmで砂状化。</p> <p>40.23~41.90m: CL</p> <p>20~40° 割れ目が主体。一部の割れ目は消滅しかかっているものもある。割れ目には薄く砂、粘土、マンガンをはさむことが多い。</p> <p>41.70~41.81m間はφ5~10mmに礫状化するが、これはコアチューブ引上げ時に砕けたものである。</p> <p>41.90~43.94m: D</p> <p>強風化により割れ目ぞいの砂状化が拡大。締った砂状部と硬さDのφ10~20mm岩片からなる「砂礫状」を呈する部分が主体。岩組織や割れ目の一部は残留している。部分的に粘土化部やマンガン鉱染部も伴う。</p> <p>43.09~43.30mおよび43.50~43.71m: 硬さ「D」が中石的に残留している。</p> <p>43.46~43.55m: 割れ目ぞいにマンガン鉱染が著しい。</p> <p>色調は黒褐色化する。</p> <p>43.94~45.96m: CL</p> <p>割れ目ぞいに風化で砂状化が進む部分も含む。</p> <p>一部の岩片は硬さ「C」と硬質で残留する。</p> <p>44.77m: 45° 割れ目ぞい幅20~25mmは淡緑灰色化する。</p> <p>緑泥石化変質と推定される。</p> <p>45.10~45.25m: 硬さ「C」の硬質岩片が分布。</p> <p>45.96~46.31m: 硬さ「C」で硬質。割れ目は厚さ1~2mm程度で砂状化する。</p> <p>46.74~46.85m: 割れ目ぞいに砂状化進み、硬さ「E」が主体。</p> <p>46.90~47.06m: 結化により二次石英がφ1~3mm斑点状~幅1~2mmの脈状で晶出し、全体が硬さ「C」と硬質。</p> <p>47.06~47.50m: D</p> <p>岩組織と割れ目は消滅している。</p> <p>硬さ「D」主体のφ3~10mmに細岩片化している。</p> <p>47.50~48.08m: CL</p> <p>47.85m以浅は硬さ「D」主体、47.85m以深は硬さ「C」主体で、47.85m以浅は風化で割れ目ぞいの一部で砂状化進み、岩片自身も軟質化している。</p> <p>●48.08~48.12m: 破砕部(主せん断面48.12m)</p> <p>48.08~48.12m: Hb</p> <p>上端53°, 下端56° でいずれも直線的に連続。φ1~3mm石英粒、φ3~5mm硬さ「D」岩片を20~30%含む半固結状の「礫質粘土状」呈する。上端部にマンガン鉱染伴う。色調は灰黄褐(10YR4/2)~黒褐色(10YR3/1: 上端部のみ)。厚さ20mm。</p> <p>48.12m: Hc-2</p> <p>56° で上下端とも直線的に連続。φ0.5~1mmの石英粒を20%程度含む半固結状の粘土(ガウジ)。色調は、黒褐色(10YR3/1)、厚さ1mm、マンガン鉱染を伴っている。</p> <p>48.12~52.42m: CL</p> <p>概ね長さ5cm前後の短柱状コアが主体。</p> <p>48.12~48.51m: 60~70° 割れ目主体。割れ目に砂や粘土の挟み物が分布する(これら割れ目はません断面と同方向に近い)。</p> <p>48.51~48.60m: 締った砂状化呈する。</p> <p>48.84~48.88m: 上端20°, 下端38° の割れ目に囲まれ締った砂状化を呈する。</p> <p>49.00~49.34m: 割れ目ぞいに風化・砂状化が進み、コアチューブ引上げ時に乱され、外見は礫状コアを呈している。</p> <p>割れ目ぞいに風化で砂状化するものが主体。密着割れ目も風化でハンマーの打撃で分離し弱い。</p> <p>硬さ「C」が主体であるが、風化で軟化した硬さ「D」や逆に堅硬な硬さ「B」も含む。</p> <p>50.44~50.67m: 硬さ「B」で堅硬。上下端は砂状化している。</p>
						D'	100	2	0			
						にぶい橙	CL'	100	5	0		
						にぶい黄橙	D'	100	3	0		
						明褐灰	CL'	100	3	0		
						にぶい黄橙	D'	100	4	0		
						明褐灰	CL'	100	8	0		
						にぶい橙	CL'	100	14	14		
						にぶい橙	CL'	100	10	10		

柱状図(51.00m~60.00m)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm)	記事
				花崗斑岩	にぶい 橙	CL'	100	9	0		<p>51. 15~51. 50m: 上下位よりも石英斑晶がφ5~15mmと大型化する(上下位側はφ5mm前後主体)。</p> <p>51. 51m以深は風化が進み、割れ目ぞいの砂状化が広がり、φ10~30mm硬さ「D」岩片を含む「砂礫状」を呈する部分もある。</p> <p>52. 18~52. 22m: 「細礫混じり粗粒砂」状を呈する。</p> <p>52. 42~52. 99m: CM 岩片は硬質であるが一部に密着度の低い割れ目も含んでいる。 割れ目は厚さ2~3mmで砂状化することが多い。</p> <p>52. 99~53. 20m: CL 割れ目ぞいに砂状化進む。消滅しかかっている割れ目が多い。</p> <p>53. 20~53. 55m: D 岩組織は残留するが、割れ目は消滅するか、しかかっているものが多い。硬さ「D」のφ1mm程度の岩片が散在している。</p> <p>53. 55~54. 10m: CL 一部で硬さ「C」岩片も含み全体不均質。 長石は大半が白濁化する。</p> <p>54. 10~54. 72m: D 風化で砂状化著しい。</p> <p>54. 37~54. 46mでは硬さ「E」の岩片が残留する。</p> <p>54. 60m以深では粘土化も進む。</p> <p>●54. 72~54. 77m: 破砕部(主せん断面、54. 7m)</p> <p>54. 72~54. 77m: Hb 上端48°で波打ち、下端39°で直線的に連続。φ2~4mm石英粒と粘土化したφ5~10mm岩片を30~50%含む軟質な「礫質粘土状」ないし「礫混じり粘土状」呈する。マンガニ鉄染を一部に伴う。 色調は明褐色(5YR7/2)。厚さ40~50mm。</p> <p>54. 77m: Hc-1 39°で上下端とも直線的に連続。石英粒、岩片は殆んど含まない(5%以下)軟質粘土(ガウジ)。色調は灰褐(7. 5YR5/2)。厚さ: 2mm。</p> <p>54. 77~55. 24m: D 全体に粘土化進む。 55. 00m以浅では岩片やマンガニ鉄染部を脈状に含む。 55. 00m以深では白色粘土化部や赤灰色粘土細脈を多く含む。</p> <p>55. 24~57. 70m: CL 硬さ「D」岩片が主体。 割れ目ぞいに風化が進む部分では硬さ「E」や締った砂状部も分布する。 割れ目ぞいにマンガニ鉄染受け、割れ目面とその周辺は黒褐色化することが多い。</p> <p>56. 83~57. 00mでは割れ目ぞいの風化が進み砂状化、残留する硬さDのφ5~10mm岩片とともに外見上は砂礫状を呈する。</p> <p>57. 00~57. 45mは密着度の低い割れ目が密集し、φ1mm程度に細岩化している。 岩片の硬さは、硬さ「C」と硬質なものも多く含む。</p> <p>57. 45~57. 70m: 割れ目ぞいに砂状化が進み、全体に上位より軟化が進む。</p> <p>57. 70~57. 99m: D 岩組織と割れ目は残留するが、全体に風化による砂状化部が拡大し、締った砂状部が主体である。</p> <p>57. 99~58. 28m: CL 岩片は硬いが20~30°割れ目が10~30mm間隔で同方向に発達。 マンガニ鉄染も伴う。</p> <p>58. 28~58. 73m: CM マンガニ鉄染で割れ目は黒褐色化するが、砂や粘土などの挟在物は分布しない。</p> <p>58. 73~59. 71m: CL 割れ目ぞいに砂状化し、密着度の低い割れ目も多い。 全体として脆い。</p> <p>59. 35~59. 54m間は硬さ「C」主体。</p> <p>59. 71~60. 00m: D 強風化で締った砂状部主体。φ10mm前後の岩片が残留し、「砂礫状」を呈する。</p>
					にぶい 黄橙	CM'	100	11	11		
					明褐色	D'	100	4	0		
					にぶい 黄褐	CL'	100	4	0		
					明赤灰	D'	100	4	0		
					明褐色	CL'	100	3	0		
					灰黄褐	CL'	100	2	0		
					にぶい 黄橙	D'	100	3	0		
					にぶい 黄橙	CL'	100	9	0		
					にぶい 黄褐	CM'	100	9	0		
					灰褐	CL'	100	3	0		
						D'					

柱状図(60.00m~65.00m)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm)	R Q D (%)	記事		
													0 20 40 60 80 100	
				花崗斑岩	灰褐色 明褐色	CL'	100	2	0			60.00~60.26m: CL 50~55° 割れ目が主体。 割れ目ぞいにマンガン鉱染受ける。		
							D'	100	2	0			●60.26~60.69m: 破砕部(主せん断面60.58m)	
							明褐色	CL'	100	4	0			60.26~60.58m: Hj 上端は28° で一部消滅しかける不明瞭部からなる直線的な割れ目、下端は18° で波打って連続。φ5~10mm 硬さ「E」岩片と、岩片間は風化で砂状化が拡大した「礫質砂」状呈する。下端側に主せん断面と同方向の細かい割れ目が発達。色調はにぶい黄橙(10YR6/4)。厚さ32mm(コア長)。
							明褐色	D'	100	2	0			60.58~60.59m: Hc-1 18° で上下端とも波打って連続。φ1mm 石英粒を約20%含む軟弱粘土(ガウジ)。色調は明褐色(5YR7/2)。厚さ10~12mm。
							灰褐色	CH'	100	18	34			60.59~60.69m: Hj 上端18° で、下端37° 割れ目でいずれも波打って連続。φ5~20mm 硬さ「E」岩片と岩片間の粘土化~砂状化部からなる。色調は明褐色(7.5YR7/2)。厚さ100mm(コア長)。
							明褐色	CH'	100	18	34			60.69~61.29m: D 大半が風化で砂状化。 ●61.29~61.69m: 破砕部(主せん断面61.41m)
												61.29~61.41m: Hj 上端45°、下端50° でいずれも直線的に連続。主せん断面とほぼ同方向の45° 割れ目とこれに斜交する割れ目でφ5~10mmに岩片化した岩片と、一部の岩片間に分布する幅1mm以下の軟質白色粘土からなり「粘土混じり岩片状」呈する。色調はにぶい橙(7.5YR7/4)。厚さ100mm。		
												61.41~61.43m: Hc-1 50° で上端は直線的に、下端は波打って連続。φ1~2mm 石英粒、φ3mm 岩片を約5%含む軟質粘土(ガウジ)。色調は灰黄褐(10YR4/2)。厚さ5~15mm。		
												61.43~61.69m: Hj 上端50° で、下端60° で不明瞭にいずれも波打って連続。硬さ「D」のφ5mm 岩片と、岩片間の斑点状~細脈状(幅1mm)軟質白色粘土からなり「粘土混じり岩片状」呈する。上端側は粘土化著しい部分がある。色調はにぶい橙(7.5YR6/4)~灰白色(10YR8/2)。厚さ26mm(コア長)。		
												61.69~62.39m: CL 45~60° とこれに斜~直交する割れ目が多いが、62.00m以浅ではこれらが消滅しかかっているものが多い。		
												62.39~63.75m: D 局部的にφ5~20mm 硬さ「D」岩片が残留するが、大半が砂状化している。 62.95m以深では粘土化も更に進み、岩組織は大半の部分で消滅する。幅1~2mm 白色軟質粘土脈が粘土化岩片間を縫うように分布する。 一部でマンガン鉱染を伴ない薄く黒褐色化する。		
												●63.75~63.85m: 破砕部(主せん断面63.80m)		
												63.75~63.80m: Hj 上端3° で波打つ割れ目で、下端46° で直線的に連続。φ5~10mm 岩片と岩片間の粘土状~砂状部からなり、「粘土・砂混じり岩片」状呈する。 色調はにぶい橙(7.5YR7/3)。厚さ30~50mm。		
												63.80~63.85m: Hb 上端46° で直線的に、下端47° で波打って連続。φ1~3mm 石英粒、φ5~20mm 硬さ「D」岩片を20~30%含む半固結状の「礫質粘土」状呈する。色調は灰褐(7.5YR5/2)。厚さ45~55mm。		
												63.85~64.49m: D φ10~20mm 硬さ「C」岩片が多く残留している(残留率30~40%程度)。 全体によく締った「砂礫状」を呈する。 粘土部は砂状部中にわずかに散在する程度。		
												64.49~65.18m: CH 堅硬・塊状。		
												64.68~64.73m: 上端45°、下端30° 割れ目に囲まれ片状~角礫状化する。粘土はなく、わずかな砂状部が分布する。		

柱状図(65.00m~77.00m)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 最大コア長 (%)	R Q D (%)	記事
		70		花崗斑岩	灰褐 明褐色	CL'	100	17	17			65.00~65.17m:長柱状コア(コア長17cm)。 65.18~65.36m:D 割れ目ぞいに砂状化が拡大し、締った「砂礫状」を呈する。
					にふい橙	CL'	100	6	0			65.36~68.05m:CL 岩片は硬硬であるが割れ目ぞいに砂状化が進むことが多い。 粘土化部や粘土脈は殆んど含まない。 上端側と下端側は短柱状コア主体、中央部は片状コア主体で一部割れ目ぞいに砂状化進む。
					灰褐	CM'	100	4	0			65.96~66.01m:は砂状化が進んでいる。 66.20~68.01m:上下位に比べ風化がやや進む。
						CL'	100	10	10			66.39~66.65m:割れ目ぞいに砂状化進む。 66.39~66.44m:コアチューブ引上げ時に乱されφ10mm前後の岩片状コアを呈する。
						CM'	100	13	37			66.65~67.00m:硬さ「B」と硬硬な岩片も多く含む。
						CL'	100	11	11			67.00~67.46m:落下コア回収のため2度掘りしている。 67.48~67.63m:長柱状コア(コア長15cm)。 67.65~68.01m:硬さ「D」岩片主体で一部割れ目ぞいに砂状化する。
						CM'	100	15	26			●68.05~68.12m:破砕部(主せん断面68.05m)。 68.05m:Ho-1 41°で上下端とも直線的に連続。φ1mm石英粒をごく少量(5%以下)含む軟弱粘土(ガウジ)。色調は淡黄(2.5Y8/3)。厚さ1~2mm。
						CL'	100	18	18			68.05~68.12m:Hj 上端41°で直線的に、下端20~40°で湾曲し、一部、灰黄褐(10Y5/2)の幅1~5mm軟弱粘土脈として連続。主せん断面と同方向の割れ目とこれに直交する割れ目でφ5~10mmに細片化した岩片と岩片間の一部が幅1mm白~淡黄色軟弱粘土脈からなり「粘土混じり岩片」状を呈する。 色調はにふい橙(7.5YR/3)。厚さ65mm。
						CM'	100	8	0			68.12~69.69m:CM 硬硬であるが、割れ目がやや多い。一部で長石が白濁化するが少ない。 挟在物は少ないが、69.30~69.40m間の90°割れ目にごく薄い砂状部をはさむ。
						CL'	100	27	27			68.12~68.16m:は軟化著しい。 69.69~69.95m:CL 69.81~69.95mは割れ目ぞいに砂状化進みφ10~20mm岩片を含む「砂礫状」を呈する。
						CM'	100	9	0			69.95~71.06m:CM 割れ目には殆んど挟在物は分布しないが、70.66m・57°と70.70m・60°割れ目に囲まれて片状化する。 前者の割れ目では面ぞいに幅1~2mm砂状化。φ0.5~1mmの雲母(セリサイト)が晶出ししている。
						CL'	100	9	0			71.06~71.88m:CL 30°と60~75°割れ目が交差し、交差部の一部では厚さ10~60mmで締った砂状~砂礫状を呈する。 粘土化部も点在するがわずかである。
						CM'	100	8	0			71.88~76.11m:CM 一部で風化による砂状部を幅2~3mmで挟むが、挟在物が分布しない割れ目が多い。 72.48~72.57m:割れ目ぞいに褐色化進むが硬質で砂状化はない。
						CL'	100	27	27			72.57~73.16m:長さ10cm以上の硬質コア主体。 73.20~75.00m:20~30°と60~70°割れ目が交差。 交差部の一部で片状~角礫状化するが砂状部や粘土部は伴わない。
						CM'	100	15	26			74.85~75.00m:割れ目ぞいにマンガン鉱染受ける。 75.65~75.92m:内部にゆる割れ目や密着度の低い割れ目を持たない長さ26cmのコア。 76.11~77.02m:CL 割れ目が交差しφ10~30mmの片状~角礫状化する。 岩片自身は硬質で劣化はない。 一部の割れ目ではφ2~5mmの細礫状に幅10mm以下で砕けているが、砂や粘土は伴わない。 全体に長石の白濁化が目立つ。

柱状図(77.00m~85.00m)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色 調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%) 最大コア 長 (cm)	R Q D [%]	記事
		80	+	花崗斑岩	灰褐色	CL'	100	15	27			77.02~79.47m: CM 全区間硬質であるが、77.43~78.00m間では密着度の低い割れ目が多く、ハンマーの打撃でφ3mm前後に分離・細片化し易い。また、同区間では割れ目ぞいにマンガン鉱染を受け割れ目の面の一部は黒褐色化する。
			CM'			100	15	15			77.21m: 交差する2本の割れ目の一部で、幅2~3mm砂状化するが、砂状部は割れ目全体に連続しない。	
			CL'			100	8	0			78.00m: 以深は長10cm前後のコアが主体となるが、一部では密着度の低い割れ目をもつものもある。	
			CM'			100	10	20			78.40m: 割れ目ぞいにマンガン鉱染を受ける。	
			CH'			100	23	66			79.00m: 以深では長石斑晶の白濁化が多い。	
			CH'			100	45	68			79.10m: 40°割れ目ぞい幅10~15mmが淡緑色化し、面ぞいにφ0.5mm以下の微細な雲母(セリサイト)が晶出する。	
			CL'			100	11	11			79.47~80.19m: CL 30~50°と70°割れ目が交差、交差部の一部でφ1mm程度に細片状化。	
			CM'			100	11	11			70°割れ目の一部に幅2~3mmの淡黄~褐色粘土脈はさむ。	
			CL'			100	12	12			79.83~79.90m: 割れ目ぞいに砂状~φ2~5mm細片状化進む。少量の粘土も伴う。	
			CL'			100	12	12			80.19~80.48m: CM 一部のコアに密着度の低い割れ目を含んでいる。	
											割れ目挟在物は分布しない。 80.48~83.12m: CH 堅硬で概ね未風化の岩盤で、割れ目には挟在物は分布しない。 ゆ着割れ目はなく、密着度の低い割れ目はごく一部に分布する程度。 全体にφ2~3mm暗緑色鉱物(緑泥石)が晶出している。 長石の白濁化は殆んど認められない。 81.10~81.35m: φ2~5mmの斑点状にマンガン鉱染受け灰褐色色調おびる。劣化は伴わない。 82.10~82.30m: 珪化変質によりφ5~10mm斑点状~幅1cm脈状の石英が晶出し上下位よりも更に硬質となっている。 82.72~82.86m: コア中に密着度の低い割れ目を含む。 83.12~83.79m: CL 83.46m: 以浅は20~50°割れ目が多く、割れ目ぞいに砂状化が進む。マンガン鉱染も伴う。岩片自身も硬さ「D」に軟化する。 83.46m: 以深は割れ目は多いが硬質で挟在物も殆んど分布しない。 83.79~84.43m: CM 堅硬。 84.35~84.38m: 10~15°割れ目ぞい、ごく薄く風化、砂状化する以外は割れ目挟在物は分布しない。 一部にゆ着割れ目が分布するが密着度高く、ハンマー打撃でも分離しない。 84.43~84.61m: CL 硬さ「C」岩片主体、多くの割れ目はマンガン鉱染で黒褐色化、粘土化なし。 84.61~85.50m: CL 硬さ「D」岩片主体。 一部で割れ目ぞいに風化、砂状化が進む部分もある。 長石の白濁化が目立つ。	

柱状図(85.00m~88.00m)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色 調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 最大コア長 (%)	記 事
				花崗斑岩	にぶい褐	CL CL' D	100	2	0		<p>85.15m: 50° 幅5mm軟質な灰白色粘土脈はさむ。</p> <p>85.24~85.35m: 砂状化が進んでいる。40°前後の割れ目が残留。</p> <p>85.50~85.58m: D 粘土化が進む。</p> <p>●85.58~85.76m: 破砕部(主せん断面85.63m)</p> <p>85.58~85.63m: Hj</p> <p>上端40°で直線的に、下端48°で一部不明瞭ながら直線的に連続。φ5~1(mm)硬さ「D」岩片と岩片間の粘土部からなり「粘土混じり岩片」状を呈する。上端付近に幅5mm石英脈が主せん断面とほぼ同方向に分布する途中で消滅する。</p> <p>色調は灰黄(2.5Y7/2)。厚さ35mm。</p> <p>85.63~85.64m: Hc-2</p> <p>48°で、上端は一部不明瞭ながら直線的に連続。下端は波打って連続。φ2~3mm石英粒、φ5mm硬さ「D」岩片を10%含む軟質粘土(ガウジ)。</p> <p>色調は淡黄(2.5Y8/3)。厚さ5mm。</p> <p>85.64~85.76m: Hj</p> <p>上端48°で波打って、下端32°で幅1~2mmの軟弱な灰白(2.5Y8/2)粘土脈として直線的に連続。主せん断面と同方向に斜交する割れ目でφ5~10mmに岩片化している。岩片間の一部は粘土~砂状化し、幅1mm灰白色(2.5Y8/2)粘土脈が分布。85.68m・53°のシャープなsjが分布し、これ以深は一部でマンガン鉱染受け黒褐色化する。全体には「粘土・砂混じり岩片状」呈する。</p> <p>色調は淡黄(2.5Y8/3)~にぶい褐(7.5YR6/3)。厚さ100~120mm。</p> <p>85.76~87.47m: CL</p> <p>86.52m以浅は硬さ「D」、86.52m以深は硬さ「C」岩片主体で、後者では一部で短柱状コアも含む。前者では割れ目ぞいの一部で砂状化する。</p> <p>85.76~86.00mは石英をφ10mm斑点状~幅2mm、20°脈状に含む。</p> <p>87.47~87.90m: CH</p> <p>堅硬、長石の一部は白濁化する。一部でゆ着割れ目を含むが密着度高くハンマーの強打でも分離しない。</p> <p>87.90~88.38m: CL</p> <p>割れ目ぞいの一部は風化で薄く砂状化する。</p> <p>密着度の低いゆ着割れ目が多く、ハンマーの打撃でゆ着割れ目ぞいに分離・細片化し易い。</p>

柱状図(88.00m~92.00m)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%)		記 事
										最大 コア 長 (cm)	コア 長 (cm)	
	90			花崗斑岩	にぶい褐 灰褐 にぶい褐	CL' CL' D' CL'	100 100 100 100	10 1 2 3	10 0 0 0	0 20 40 60 80 100	0 20 40 60 80 100	<p>●88.38~88.43m: 破砕部(主せん断面88.43m)</p> <p>88.38~88.42m: Hj 50°で、上端は直線的な密着割れ目で、下端は直線的に連続。 主せん断面と同方向の割れ目が数本と、これらに斜交する割れ目によりφ5~1(mm)に岩片化している。粘土は殆んど伴わないが一部の岩片間では砂状化する。全体に「砂混じり岩片」状呈する。 色調はにぶい褐(7.5YR7/3)。厚さ3(mm)。</p> <p>88.42~88.43m: Hc-1 50°で上下端とも直線的に連続。石英粒、岩片を殆んど含まない軟弱粘土(ガウジ)。色調は明黄褐(10YR6/6)。厚さ5(mm)。</p> <p>88.43~88.88m: CL 20~40°の低角度で直線的な割れ目が多い。一部で砂をはさむ。</p> <p>●88.88~88.94m: 破砕部(主せん断面88.92m)</p> <p>88.88~88.92m: Hj 30°で、上端は幅0.5(mm)の軟弱な白色粘土脈で直線的に、下端も直線的に連続。主せん断面と同方向に細かい割れ目が発達しφ5(mm)の岩片に細片化している。岩片間は幅1(mm)以下とごく薄く粘土~砂状化する。全体に「粘土・砂混じり岩片」状呈する。 色調はにぶい黄褐(10YR7/2)。厚さ15~20(mm)。</p> <p>88.92~88.94m: Hc-2 30°で、上下端とも直線的に連続。φ1~3(mm)石英粒、φ5(mm)粘土化岩片計15%含む軟質粘土(ガウジ)。色調は灰白(7.5Y7/2)。厚さ15~20(mm)。</p> <p>88.94~91.69m: D 割れ目ぞいに風化が進み、砂状化部が拡大している。90.81m以浅はφ5~20(mm)の硬さ「C」「D」岩片が残留し、固結砂状部を基質とする「砂礫状」を呈する。岩組織はほぼ消滅している。90.81m以深は硬さ「D」岩片主体で岩組織と割れ目の大半は残留し、割れ目の一部は残留し40~60°が主体。 90.50m: 60°、厚2~3(mm)の石英脈が分布。 91.04mと91.20m: 割れ目に厚さ1(mm)の軟質な灰白色粘土が脈状に分布。前者ではマンガンを後者では砂を伴っている。 91.47m以浅では残留岩片の割れ目や砂状基質部の一部がマンガン鉱染受け、黒褐色化する。 91.60m以深ではφ3(mm)長石斑晶が多くなる。このうち、主せん断面近傍では長石が主せん断面方向に配列する。 ●91.69~91.76m: 破砕部(主せん断面91.70m)</p> <p>91.69~91.70m: Hc-1 51°で上端は波打って、下端は直線的に連続。φ0.5(mm)と微小な石英粒を約5%含む軟弱粘土(ガウジ)。色調は明褐灰(7.5YR7/2)~灰褐(7.5YR5/2)で縞状を呈する。 上端側の一部に白色粘土脈とマンガン鉱染伴う。厚さ3~5(mm)。</p> <p>91.70~91.72m: Hb 上端51°で直線的に、下端53°で波打って連続。φ1~3(mm)石英粒、φ5(mm)前後の硬さ「D」岩片を約20%含む軟質な「礫質粘土」状を呈する。色調は灰白(7.5YR8/1)。厚さ7~12(mm)。</p> <p>91.72~91.76m: Hj 上端53°で波打って、下端45°で直線的に連続。主せん断面と同方向~20°斜交の細かい割れ目が多く、φ5~1(mm)に岩片化している。岩片間に主せん断面と同方向の幅0.5~1(mm)軟弱な白色粘土脈が分布する。全体として「粘土混じり岩片」状呈する。色調はにぶい褐(7.5YR5/3)。厚さ30~40(mm)。</p> <p>91.76~94.80m: CL 密着度がきわめて低い割れ目を多く含み、ハンマーの軽打でφ10~30(mm)の小岩片に分離・細片化する。 93.00m以浅はコア長3~5cm主体の短柱コア、93.00m以深はゆるぎ割れ目も含め、割れ目が密集し、コア長1~2cmの片状コアが主体。また、長石の大半は白濁化し、割れ目ぞいに砂状化することがある。マンガンをはさむが、粘土脈は殆んど分布しない。</p>

柱状図(92.00m~105.00m)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm)	記 事
100			+	花崗斑岩	にふい橙	CL'	100	5	0		<p>92.09m: φ1cm 緑泥石が30° 割れ目で切断されるが変位はない。</p> <p>92.18m・70° ~92.24m・44° 間はφ5~1cmの岩片状に砕け、各割れ目面にマンガンが付着する。</p> <p>92.65m: 55° 割れ目に幅2mm マンガンを脈状にはさむ。</p> <p>93.81~94.13m: 硬さ「B」で割れ目挟在物は分布しない。</p> <p>94.26~94.38m: φ5~1cmの大型石英斑晶が点在し、一部は35~50° 割れ目で切断されている。</p> <p>94.80~97.96m: CH 全体が緑灰色化する。 概ね新鮮であるが、一部の割れ目ぞいに風化による褐色化が進む部分もある。 挟在物をはさまない割れ目が主体であるが、処々に割れ目挟在物が認められる。</p> <p>95.46m: 55° 割れ目ぞい幅10~15mmが褐色化し、硬さ「D」に軟化。上盤側に幅7mm方解石を脈状に伴うが、同脈は途中で尖滅している。</p> <p>95.90~96.00m: 割れ目が10~2cm間隔で交差し、風化で褐色化、硬さ「D」に軟化するが砂状部は分布しない。</p> <p>96.60~96.63m: 割れ目ぞい幅1cm程度が淡褐色化し、幅1~2mm砂状部をはさむ。</p> <p>97.36m: 35° 割れ目に淡緑色シルト~細砂脈はさむ。 その直下の97.65mまで密着度の低い割れ目が多く分布。</p> <p>97.96~98.48m: CM 岩片は硬いが、割れ目ぞいの砂状化も認められる。 粘土化部や粘土脈は少ないが長石の白濁化が多い。</p> <p>98.48~101.32m: CL 割れ目ぞいの砂状化部が多くなる。 粘土は殆んど分布しないが、長石は概ね白濁化する。</p> <p>99.44m以浅は岩片は硬質、以深は風化で軟化している。</p> <p>99.16~99.45m: 長さ10cm前後の柱状コアが中石的に分布する。</p> <p>99.44~99.90mは割れ目ぞいに風化・砂状化し、岩片自身も上下位に比べ軟化する。 特に99.76~99.90mでは40° 割れ目ぞい砂状化が進み岩片も一部硬さ「D」まで低下。</p> <p>100.52~101.32m: 割れ目ぞいの風化、砂状化が進む。岩片の硬さも軟化し、硬さ「C」主体で部分的に硬さ「B」が残留。長石は白濁化する。</p> <p>100.84~100.89m、101.23~101.32m: 割れ目ぞいに砂状化が拡大。φ5~1cm岩片と共に「砂礫状」呈する。</p> <p>101.32~102.05m: CM ほぼ未風化で、挟在物も分布しない。 一部に密着度の低い割れ目も分布している。</p> <p>102.05~104.65m: CL 103.70m以浅では硬さ「B」主体で硬さ「C」「D」も分布、103.70m以深では硬さ「D」と軟化が進んでいる。 102.05~102.41m: 約1cm間隔で細かく密着度の低いゆるぎ割れ目が多い。</p> <p>102.41~102.94m: 硬さ「B」岩片主体。割れ目ぞいに1~3mm程度と薄く砂状化する。粘土化部は分布しない。</p> <p>102.94~103.17m: 20~30° 割れ目ぞいに風化・砂状化が広がっている。岩片自身も硬さ「D」と軟化する。</p> <p>103.17~103.70m: 割れ目ぞいの砂状化や挟在物の分布は認められないが、一部で密着度の低い「ゆるぎ割れ目」が多い。</p> <p>103.70~104.65m: 風化が進み岩片も含め全体が軟化している。 処々に幅1~2mm軟質な白色粘土を脈状に含んでいる。</p> <p>104.65~107.15m: CM 105.14~105.19m間を除き、硬質で挟在物は殆んど分布しない。</p>
							100	9	0		
							100	12	12		
						100	25	27			
						100	15	27			
						100	7	0			
						100	9	0			
						100	11	11			
						100	4	0			
						100	6	0			
						100	4	0			
						100	6	0			
						100	5	0			